

「共に生きてくださる主」

～永遠の世界に目を注ぐ～

「こういうわけで、私たちは決して失望しない。私たちの肉体はだんだん衰えていっても、私たちのうちにある本当の命は、日ごとに新しくされ、若やいでいく。今の私たちの苦しみや悩みは、やがて過ぎ去る苦悩であって、それは、いつまでも続くすばらしい栄光をもたらすものである。だから、私たちは見える一時的なものではなく、目に見えないか永遠に至るものに心を留めるのである。」 2コリント4:16-18 現代訳

イースターおめでとうございます、主イエス様のご復活を心よりお祝い致します！

主イエス様はご復活され、ご自身が全能の神であることを証明なさいました。しかし、主は、その勝利を私たちと共に味わいたいと願って、私たちをも共に復活にあずかる者となるようにしてくださいました。主のご復活にあずかること、それは永遠のいのちに生きることです。そして、それが私たちに与えられた永遠の希望です。私たちはこの世の世界で終わりではない、現在の目に見える世界にのみ生きる存在ではなく、永遠の希望に生きる存在であることを信じられること、それこそが永遠の希望に生きることです。

私たちはこの世の世界に生きていますが、この世の世界に属しているわけではありません。クリスチャンとして生きるために、時には不自由さを感じることもあります。私たちは神第一に生きるために様々な犠牲を払うこととなります。私たちは福音によって自由にされたはずなのに、時々、この世の生活との調整に悩み、不自由さを感じるがあります。しかし、ある時、気づかされたのですが、私たちはこの世の生活との調整に悩むことから自由にされているのではないかと考えるようになりました。この世の人々はそんな世間のしがらみに縛られながら生きています。しかし、私たちクリスチャンはそのようなものから完全に解放され自由になっているはずなのです。でも、せっかくクリスチャンになり、神の子とされ、自由にされたのに、再び、この世の考え方の奴隷となってしまうとしたら、本当にもったいないことだと思います。

私たちは今、この世にあり、まだ、実際には永遠のいのちの中に生きているわけではなく、その希望と、約束の中に生きていく訳ですが、私たちの心自体は信仰によって、しっかりとその希望に生きることが出来ます。しかし、クリスチャンと自称していても、実際にクリスチャンとして生きられていない人が結構多いのではないかと思います(私自身も含めて)。その解放されたクリスチャンとして生きるためには日々チャレンジが必要です。時々うまくいかないこともあるでしょう。迫害も受けるかもしれません。しかし、私たちの信仰の姿勢は前進していく必要があります。信仰の完成者であるお方を見上げつつ…。